

## 肺機能検査

肺活量	肺活量は、肺の機能を見る1つの指標です。最大に息を吸った状態から最後まで吐き出すまでに吐き出された空気の量になります。成人では年齢を重ねるほど量は減少します。肺結核や肺炎、腫瘍による気管支閉塞などが原因で肺活量は少なくなります。
努力性肺活量	肺および呼吸の機能の指標で、一気に息を吐いた時の空気の量のこと。通常の肺活量とは、ゆっくりとではなく、一気に息を吐く点で区別される。努力肺活量測定においては特に、最初の1秒に吐かれる空気の量が、1秒量と呼ばれ重視される。努力肺活量が劣る場合、肺気腫などの疾患が疑われることがある。
1秒量	最大吸気位（これ以上息を吸うことができない程息を吸い込み、肺がぱんぱんの状態）から、できるだけ速く息を吐き出（努力呼出）したときの、最初の1秒間に吐き出すことのできた息の量のこと。喘息やCOPDなどの閉塞性疾患（気管が細くなり息を吐き出し難くなる病気）の、重症度などの判定に重要。身長・年齢・性別から得られる予測値（標準値）に対する%で評価する。この予測値に対する%を%FEV1と表記し、80%以上が正常。
1秒率	1秒間に肺活量のうちどのくらいを吐き出すことができるかを、パーセントで示した値。1秒率が減った場合は吐き出す力が弱いということを示し、COPD（慢性閉塞性肺疾患）や気管支ぜんそくなどが疑われます。70%以上を正常値としています。
最大換気量	肺内の空気を、1分間にどれだけ多く入れ替えることができるかを測定した総合的な呼吸の予備能力の指標であり、拘束性障害、閉塞性障害とともに減少するが、特に中～高度の閉塞性障害では空気のとらえこみ現象のために著しく低下する。 80%以上を正常値とする。